

# いざ往かん!

太田東高校キャリア教育部

2020.11.25(水)発行 No.26

## 東京の大学を知ろう!(XIII)

~シリーズ:大学について知ろう(その22)~

大学紹介シリーズは今回が最後です。そこで、最終回にふさわしく、日本の大学の頂点に立つ東京大学を紹介することにします。大学入試の偏差値ランキングを見ると文系・理系を問わず必ずトップに来るのが東京大学。研究費も予算規模も当然日本一。もちろん入試のやり方も他大学とは違って、募集単位は学部ではなく6つの科類(下の表を参照)。学部は2年途中の“進振り”(希望と学業成績によって3年からの学部所属を決める東大独特の制度)によって決められます。募集定員は約3000名で、実は国立大学としては最大規模。数年前から推薦入試が始まりましたが、その定員は100名と少なく、ほとんどは一般入試(前期のみ)で選抜されます。共通テスト900点分を110点に圧縮し、2次試験440点分(文系が国120、英120、地歴2科目計120、数80。理系は数120、英120、理科2科目計120、国80)との合計点で判定するというもの。2次試験で4教科を課す大学はほとんどなく、しかも文系で地歴2科目

### 東大の入学募集体系と前期募集定員

募集体系	前期定員	主な学部
文科一類	401	法
文科二類	353	経済
文科三類	469	文、教育
理科一類	1108	工、理
理科二類	532	理、農、薬
理科三類	97	医

必須というのは東大のみ…。やはり簡単には入れてくれませんが、その入試問題はどの教科も本質を理解していないと解くことが出来ない良問が多いと言われていまして、進路室で見てはいかが?!

以下の文章は6年前(2014年)と4年前(2016年)に私が東大に入学した教え子をたずねて勝手に行ったときのことを書いたものです。日本の最高学府の雰囲気をちょっぴりどうぞ!



THE UNIVERSITY OF TOKYO

## 東京大学に行ってみました…

### 東大の1・2年生が学んでいる東京大学駒場キャンパスに初潜入する…

渋谷で京王井の頭線に乗り換えてわずか2駅、その名も「駒場東大前」駅に到着します。改札を出て階段を下りると、本当に目の前に「進振り」前の1~2年生が主に学んでいる東大駒場キャンパスはありました。事前に連絡しておいたので、駅前で東大2年生のM君が私の到着を待っていてくれました。M君は東大で応援部(リーダー、吹奏楽団、チアリーダーズの3パートから成り立っていますが、M君はもちろんリーダー、つまり我々がイメージする応援団)に所属しています。M君は私に会うといきなり紙袋を渡してきました。土産だなんてそんなに気をつかわなくても…などと勝手に期待しながら紙袋を開けてみると、出てきたのはファイルに入った応援部の勧誘パンフ。しかも2年リーダーとして写真入りで彼が紹介されています!…というわけで、たぶん東大でも有名人になりつつあるM君と一緒に東大駒場キャンパスに入構です!

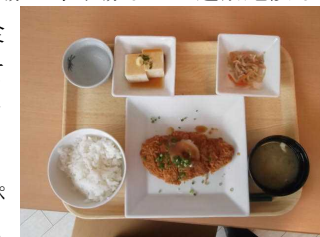


安田講堂に似ている駒場1号館

### 東京大学駒場キャンパスを散策し生協食堂でランチ…今回は人生の悩みなし!

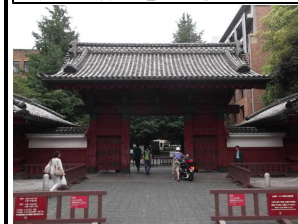
東大の1学年の定員は約3000人。ということは約6000人がこの駒場で学んでいることになるのですが、都心の私立大に比べるとあきれるほど広いキャンパスです。安田講堂に似ている1号館をはじめとして風格

のある校舎も多いのですが、生協の建物などは新しく、さらに建築中の校舎もありました。キャンパス内には東大に合格する前には見えない通称「一二郎池」と呼ばれている駒場池や、男女共同参画支援施設という名前の東大職員子弟のための幼稚園があったり、陸上競技場やラグビー場・野球場などの運動施設なども充実していて、さすが東大です。さて、11時に開いたばかりの2階生協食堂に駆け込んでランチです。東大の学食はメニューが豊富なことで知られており、悩むのは必至。そこでM君に聞いてみました。「定食だとどれがイイ?」「僕が好きなのはおろしチキンカツですね」「じゃあそれで決まり!」…と言うわけで、チキンカツに大根おろしが載った主菜に、冷や奴ときんぴらの小鉢、そしてご飯と味噌汁がついて税込500円のランチを食べ、M君との再会を約束して東大駒場キャンパスを後にしました…。



おろしチキンカツ定食(500円)

### あの「赤門」で東大法学部4年生と待ち合わせ、東京大学本郷キャンパスに潜入する…



東大の象徴「赤門」

今回の電車のお供は夏目漱石の『三四郎』の文庫本。「三四郎池で美彌子のような美しい女性と運命的な出会いがあったらどうしよう」と勝手な妄想を抱きつつ、東京へと向かったのです…。東大本郷キャンパスは3~4年生のほとんどが学ぶ所。法学部4年生になっているM君に今回も案内を頼んじやいました…。地下鉄千代田線の湯島駅で降りた私は、「湯島天神」で3年生の合格を祈った後、M君との待ち合わせ場所とした東大の「赤門」(東大の正門じゃないって知ってた?)を目指します。そして、今日も硬派に決めている彼と無事に合流。東大応援部リーダー(つまり応援団長)である彼はチャラチャラした格好はしないのです!

### 東大は広く、自然豊かで、建物もスゴイ…やはり日本のトップの大学だ

赤門から図書館(現在工事中)の脇を抜け、まずは三四郎池に案内されます。鬱蒼と生い茂る木々に囲まれた三四郎池はさながら公園の一角で、ここが大学であることを忘れそうです。三四郎池の隣には東大の象徴とも言える「安田講堂」、やはり風格があります。安田講堂の先には「御殿下記念館」と称する近代的体育施設があり、低料金で体育館や温水プール・ジムなどが利用できるとのこと。通りを挟んだ向かい側には東大病院の建物群が見えます…。それにしてもこのキャンパスは広く、そしてゴシック風の歴史を感じさせる建物群は見事としか言いようがありません。本郷キャンパスに隣接する農学部の弥生キャンパスにハチ公の銅像があるというので見学。更に足を伸ばして近くの根津神社を参拝した後、本郷キャンパスに戻りいよいよ昼食です。



風格のある安田講堂



ハチ公と上野博士の銅像

安田講堂前の西洋風庭園の地下にある生協の中央食堂へ。入口から空中に浮かぶような通路を進むとショーケースがあり、それを見て食券を購入するのですが、自動販売機ではなく熟女がレジで食券を手売りするという初めて形式。「赤門ラーメン」(400円)と「C定食」(大盛り600円、これはもちろんM君用)の食券を購入し、階下の厨房熟女に渡すと、数十秒後に赤門ラーメン登場! 実食すると…ムム、このラーメン、汁がない。麺の上に赤い色のピリ辛な「あん」がかけられて、これをグチャグチャかき混ぜながら食べてみると、これがなかなか美味い。ボリュームもたっぷり、これで400円は大満足です。食後、隣の生協購買部で買い物をして、M君と別れました…。

さて、今回の土産はもちろん東大生協で調達したのですが、大学グッズの豊富さにビックリ!。息子に「七大戦Tシャツ」(胸にハチ公とTOKYOのロゴ入り、1080円)と東大鉛筆(3本セット、308円)を。カミさんに「東大クッキー」(9枚入り、617円)を。さらに3人で山分け用に「湯島本郷百景クリアファイル」(赤門、安田講堂、三四郎池、各258円)購入。帰宅してそれらを見せると、カミさんが「何で東京大学Tシャツじゃないの」とかみつ、息子まで「何でシャーペンじゃないの」とかみついてくるではありませんか!。絶対にかみついてこない、そして無事に帰ってくるだけで喜んでくれるハチ公のような犬を私は飼いたい…。